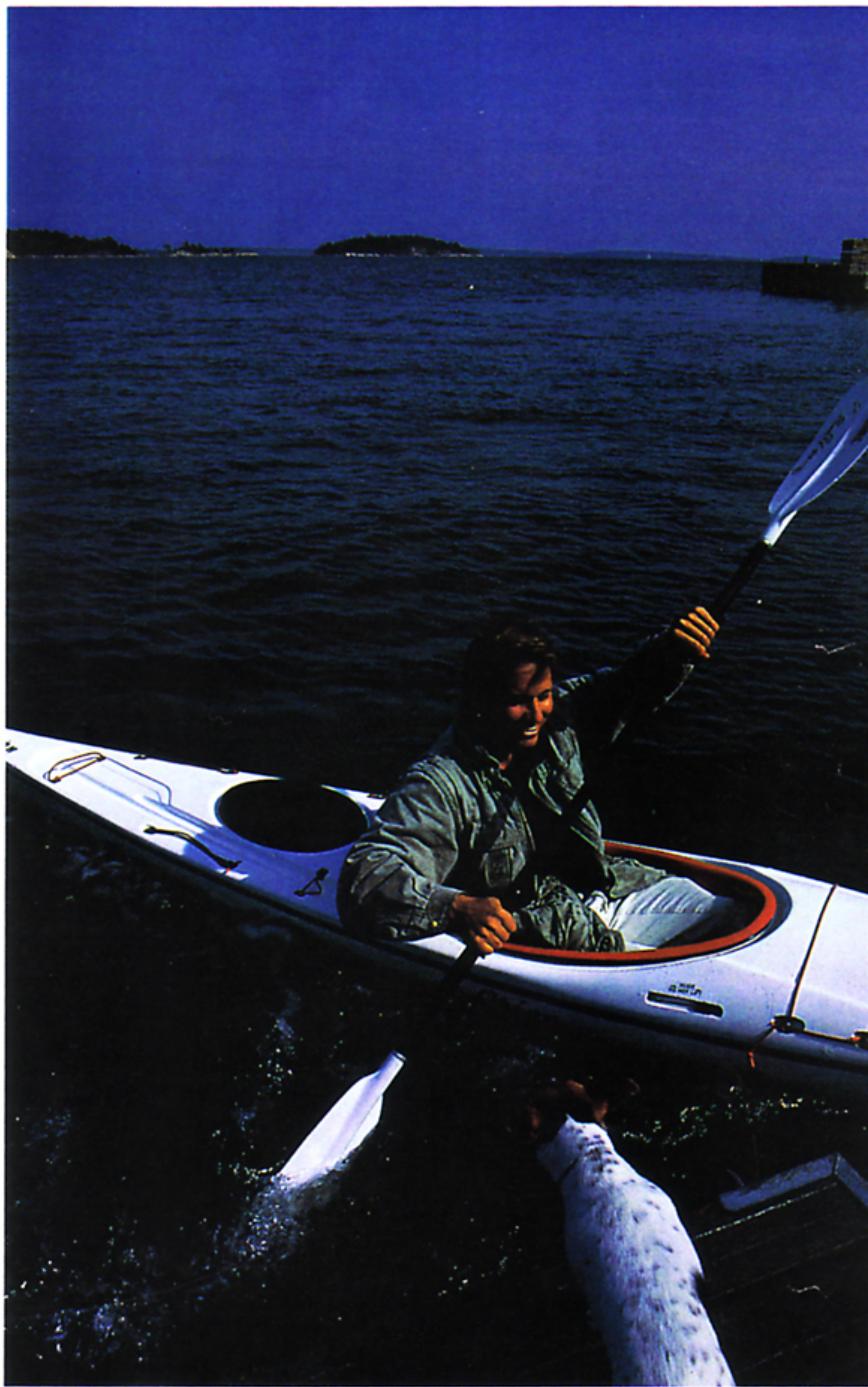


「それではみなさん、 午後のミーティングは カヌーの後で」

アウトドアスポーツ企業研修施設、ネイチャーアカデミー

Photographs : Midori Suzuki Text : Yukari Uetsuki



ストックホルムの沖、バルト海に浮かぶ3万近くの島々はスウェーデン語でアーキペラゴと呼ばれ、夏になると島のサマーハウスで過ごす市民や、観光客でにぎわう。しかしボートで1時間も沖へ出ると、サマーハウスの数はぐっと減り人や船の姿もまばらになる。波間に見えるのは、氷河に磨かれた石灰岩の丸い小丘(それを羊の群れに見立て「羊背岩」と呼ぶ)、岩に根を張る松や樺の大木。ここでは、野生のシカやウサギなどの小動物、野鳥たちの暮らしが、都市の足元に守られている。定期船も回らない、地元の漁師すら足を向けない野生のままの大小無数の島々が、アーキペラゴを縁どるように外海まで続いている。

そんな島のひとつ、地図にも載らない小さな無人島を舞台に、子供たちやビジネスマンを集め、いっけい変わったアクティビティが行われている。企業研修あるいは重役ミーティングの名目でこの孤島にやってきた人々は、経験豊かなガイドの先導でまず深い森へ入っていく。そと足

シーカヤックのインストラクター、ピア・エフォルト。技術と人柄を買われ、ネイチャーアカデミーのプログラムを任されている。子供のグループや初心者や老人を、いきなり海へ連れ出す仕事は「とにかく安心させることが重要。競争心の強いスポーツマンには向かない職業だね」

Life in a

特集=北欧/スウェーデン

Northern Town